

第24巻 PDF 読本



磐越西線（郡山～新津）

磐越東線（いわき～郡山）

2024年8月28日 歩く鉄道作家 樫原 勉

<目次>

はじめに

第1章 磐越西線（郡山～会津若松）・・・5

第2章 磐越西線（会津若松～新津）・・・・・・22

第3章 磐越東線（いわき～郡山）・・・・・・106

磐越西線（郡山～新津）：175.6 km

磐越東線（いわき～郡山）：85.6 km

総営業キロ 261.2 km

はじめに

本著書はデジタル形態のシリーズもので、「こだわり鉄道つたい歩き」よる PDF 読本旅日記の手記記録です。これまでの 5 巻（うち 2 巻は書籍）については、稚内から鹿児島までの日本縦断の旅について描いたもので、お陰様で執筆が完了しました。

引き続き、第 6 巻目からは、“日本横断歩き鉄の旅”について連載しています。第 19 弾目として、東北本線や信越本線などに接続する、福島県・新潟県を走る、磐越東線と磐越西線の旅（総営業キロ 261.2 km）について執筆させて頂きました。

本作品はカッシー館にある榎原勉文庫拡充で閲覧可能です。また、国立国会図書館でご承認を得れば、通算 33 作目の著書として国立国会図書館でも閲覧できます。

（2018 年 9 月～2023 年 8 月で踏破）

こだわり鉄道つたい歩きとは、カッシー館でもご紹介している通り、九ヶ条から構成されます。

1. ウォークマンを聴きながら一人歩きを楽しむ
2. “鉄道案内人”に従って各駅を踏破する
3. メモや写真をとりながら筋書きのないドラマを楽しむ
4. 必殺仕事人の心境で歩く
5. 出発点は先憂後楽の考えに基づき決める
6. 歩く鉄道営業キロは季節を考慮して決める
7. 活動記録をとっている
8. 青春 18 きっぷを極力活用する
9. 東横インを極力活用する

<ご参考>

本著書に登場する駅舎は、“日本横断歩き鉄の旅”PDF 読本シリーズ中、カッシー館のブログに登場する「榎原勉文庫拡充」にて、次の PDF 読本からダイジェスト版でもご閲覧頂けます。

第 30 編（日本横断歩き鉄の旅）

磐越西線 磐越東線



2023年8月11日 歩く鉄道作家 榎原 勉

第1章 磐越西線（郡山～会津若松）

平成30年9月15日（土）からの3連休、当初想定した天気が好天となり、実りの秋にふさわしい歩きが実現できる。満足また満足。すなわち、3日間で営業キロ92kmも歩ける。これで通算9,916km（活動日数488日）となり、当面の目標である1万キロまで84kmと迫った。また、野木沢から安積永盛（あさかながもり）までの水郡線（27.4km：8駅）と会津若松から郡山までの磐越西線（64.6km：16駅）にある全ての駅舎に立ち寄りにも成功した。両線とも幹線道路に沿ってない駅舎が多々あり、複雑な道筋を鋸型で歩くことが余儀なくされた。また、道筋がはっきりしないこともあり戸惑った。しかし、天や神のご加護に加え、鉄道路線を重点においたレールウェイマップル持参、地元の人々の懇切丁寧な応援のお蔭で当初の目標が達成できた。この場をお借りして厚く御礼申し上げます。



第1節 旅プラン

今回のプランとは次の通り。

○9月15日（土） 雨のち晴れ

やまびこ 125 号 大宮 7 時 58 分 → 郡山 8 時 55 分

郡山 9 時 18 分 → 野木沢 9 時 57 分

野木沢～川辺沖～泉郷～川東～小塩江(おしおえ)～谷田川～磐城守山～安積永盛(27.4 km)

安積永盛 19 時 17 分 → 郡山 19 時 25 分



ホテルロイヤル郡泊 (024-932-3232)

○9月16日(日) 晴れ

郡山 5 時 55 分 → 会津若松 7 時 9 分

会津若松～広田～東長原～磐梯町～翁島～猪苗代～川桁 (31.2 km)

川桁 16 時 54 分 → 郡山 17 時 34 分

ホテルロイヤル郡山泊

○9月17日(月) 晴れ

郡山 8 時 29 分 → 川桁 9 時 5 分

川桁～関都～猪苗代湖畔～上戸～中山宿～磐梯熱海～安子ヶ島～喜久田～郡山富田～郡山 (33.4 km)

やまびこ 156 号 郡山 19 時 30 分 → 大宮 20 時 22 分

※3 日間の旅の足取りはこれから順次ご紹介します。

第 2 節 1 日目：9 月 15 日（土）：水郡線（野水沢～郡山）：雨

水郡線のため記載割愛。

第 3 節 2 日目：9 月 16 日（日）：会津若松～川桁 曇り



※会津若松駅

福島の旅の 2 日目（平成 30 年 9 月 16 日（日））は、会津若松から郡山までの磐越西線（営業キロ 64.6 km）に挑戦する。何とか本日と明日の 2 日間でこの区間を踏破したいという一心から、ホテルでの朝食をパスし、8 時 29 分発から 5 時 55 分発の郡山始発に切り替える。”不案内な土地は何が発生するかわからない”ための用心である。正に”転ばぬ先の杖”への対応である。結果的に功を奏す。郡山から会津若松方面は初めて踏み入れる地域であったので、電車からの風景は新鮮でワクワクするものがあった。同時に中山宿や磐梯町辺りは山間が続き、この路線は相当難しいのではと察知する。加えて、東長原、広田辺りも幹線道路と鉄道が並走していないため、一層不安は倍増した。



※会津若松駅



※広田駅への路（白い観音様が印象的）、広田駅



※東長原駅、磐梯町駅への路

会津若松駅には7時9分到着。駅前に15分位留まり種々のアングルからデジカメに収める。歩き始めから方向性を誤り右往左往する。会津若松駅は、新潟駅のように磐越西線の上り（郡山方面）と磐越西線の下り（新津方面）が合流の他、只見線もあり、複雑な路線図になっていたからだ。地元の人に聞いて善処する。それでも磐越西線の上りと下りが暫く並走していたので注意を要した。踏切で停まっているドライバーの方のお世話になり、やっと広田駅への道筋が分かる。広田から東長原までの道筋は広田駅前に分かりやすい地図があったので比較的スムーズに踏破できる。しかし、東長原から磐梯町にかけては、レールウェイを白黒コピーしたため道筋が不鮮明で何人もの地元の人のお世話になり、営業キロ6kmに2時間半も要しやっとのことで踏破できる。それにしても磐梯町駅までの道のりは遠かった。ここから、標高1,819mある磐梯山を眺めながら、翁島駅、猪苗代駅、川桁駅はスムーズに歩くことができる。



※道の駅で昼食に越後だんご、磐梯町駅



※磐梯山スポットからの眺め、翁島駅



※翁島駅界隈の磐梯山、猪苗代駅

当初は川桁駅（かわげた）の2.4 km先の関都駅を目指していたが、駅界隈の山並みを見て、アップする。結果的に大成功。一つは数分の待ち合わせで上り電車（16時54分発）がやって来たこと。この電車に乗り遅れと次は18時49分となる。ラッキーであった。お蔭様で、NHKの大河ドラマ”西郷どん”まで2時間位余裕があったので、昨日の夕食を摂った夢一膳で連夜にわたりゆっくり地酒を堪能することができた。同時に店主・料理長の田代氏と記念写真を撮ってもらう機会を得る。加えて、川桁駅は快速が停まるが、関都駅には停車しない。”人間万事塞翁が馬”と思う瞬間であった。

磐越西線の一日を駅舎などの状況は以下の通り。

会津若松（7時22分）～広田（9時7分）～東長原（9時52分）

～磐梯町（12時20分）～翁島（14時17分）～猪苗代（15時40分）

～川桁（16時52分）

郡山を始発（5時55分）の電車に乗り、車中の窓から楽しみながら会津郡山駅には7時9分到着。冒頭にもある通り、朝の食事を急遽パスし臨む。郡山駅の改札口前には5時45分到着するが、改札口は閉鎖していた。やっと5時50分なりオープンとなる。私が乗ると既に数名の乗客が乗車していた。いつの間に乗ったのだろうか。磐越西線のホームに移動し、電車に乗り込む。昨日と比べ、この線（郡山～会津若松）は単線ではあるが電化されているので、電柱がある分歩きやすいと考えたが、そう簡単な鉄道網ではなかった。

会津若松駅ホームには広田駅と堂島駅が尺のようにあった。沢山の乗客が下りる。初めて土を踏んだ会津若松駅周辺を種々のアングルからデジカメに収める。今年の大河ドラマに登場する白虎隊の像が駅前にあった。赤いベロも印象に残る。観光バスも数台停まっていた。会津若松城や会津磐梯山など観光スポットがあるので。観光で見えられた方に磐梯山はどちらの方向ですかと尋ねてみたが、残念ながら明確な回答は得られなかった。駅前には“あいづっこ宣言”があった。印象に残ったのでデジカメに収める。加えて。会津を巡る物語もあった。九か条の“こだわり鉄道つたい歩き”に登場する“東横イン”が駅に到着するや否や目に映った。

あいづっこ宣言

1. 人をいたわります
2. ありがとう ごめんなさいを言います
3. がまんをします
4. 卑怯なふるまいをしません
5. 会津を誇り年上を敬います
6. 夢に向かってがんばります
やっではならぬ やらねばならぬ
ならぬことは ならぬものです

10分位滞在し、いよいよ広田駅を目指しスタートする。会津若松駅は、新潟や高松駅のように喜多方方面と郡山方面の電車が尺のような恰好で合流しているので慎重な歩きを要求された、加えて只見線や会津鉄道も合流しているので。7時32分、特急車両のような電車を見ると不安が倍増した。7時36分、会津みその看板前を通過。この辺りで自分が歩いている方向性が不安となり、住人の方が居られたので、広田駅への方向性をお伺いする。「遠いですがこの路を真っ直ぐ進めばいけます」との回答を得る。7時49分、郡山方面と記した国道に出るが、一向に線路が見えて来ないので不安また不安となる。少し行った先で鉄道が見えて来たので、国道から離れ、線路に近づく。こ

の線路が喜多方方面の鉄道かも知れないと不安となる。暫く歩くと踏切（喜多方方面）がある。不安な進路であった。運よくこの踏切のところでドライバーの方に聞く機会を得る。親切にも踏切を50m位行った先で車を停めて頂き、教えて頂く。「この道筋を5キロ位真っ直ぐ進めば行けます。広田駅から東長原駅への道筋はややこしいから近くの住人の方に聞いて下さい」との助言がある。この人は消防士の方で、私の日本縦断の話をする、「凄い。是非今回も目標を達成して下さい」と言って別れる。感謝また感謝の瞬間であった。この踏切を渡ると右手に郡山駅への線路が続いていた。先程渡った線路は喜多方方面に向かう鉄道でだんだんと遠くなっていた。いま考えると先程のスポットは磐越西線の合流点界限であった。8時22分、熊野神社前を通過する。この神社で本日の安全を祈願する。鉄道に沿って黄金色した水田が続いていた。8時24分。中前田バス停（会津バス）前を通過。8時35分、延命寺・名呂神社前を通過。8時39分、万歩計で29歩ある大工川橋を通過。8時44分、白い観音像が目に入る。広田駅までこの観音様を拝みながらの歩きとなる。8時47分、難波からの観音像を捉える。9時7分、本日最初の広田駅に到着する。

駅前で東長原駅への道筋があったので、頭の中に入れて次の駅を目指す。9時13分、鉄道下を潜り鉄道の右側となる。9時17分、直進が南長原と記した十字路を横切る。道なりに沿った黄金色した田園地帯を歩く。9時43分、目印の郵便局がある道路に出て左折する。9時50分。長谷地踏切を横切る。その先を損路に沿って歩いた先に東長原駅（9時52分）がある。駅前が高台の階段を下りて来た3人連れの女性の方に「磐梯町駅方面の道筋」を教えて頂く。「この階段を出て真っ直ぐ進めば国道に出ます。その国道を真っ直ぐ進めば、磐梯町方面に行けます」との教えて頂く。しかし、白黒コピー4の地図では何となく遠回り。かつ、鉄道の右側方面の方が鉄道に沿った路筋があるように見えたので、この助言とは反対の方向で挑戦する。先程の線路を横切り、郵便局の交差点を暫く歩いた先で、線路に沿った路筋は見つけれない。しかも、今歩いている道筋はとんでもない方向に進んでいる。誤りであると判断し、先程教えて頂いた道筋で磐梯町駅を目指すこととする。10時4分昭和電工、10時9分郵便局、10時13分踏切と、20分位ロスタイムする。踏切を渡り暫く歩いた先で、磐梯町駅への道筋を確認する。「国道に出るのは遠回りになるので、その手前のアトムと描いた看板先を右折した方が近道ですよ」と教えて頂く。山道が続く。10時20分、50m下に川が流れる風光明媚な箇所を通過。この界限の道路は雨の影響で濡れていた。10時24分、アトムと記した交差点にさしかかる。1km位先には国道があった。歩きやすい農道を歩く。10時27分、アトムと記した事務所があった。10時38分、落合踏切を横切り鉄道の右側となる。暫く歩いた先で入倉踏切（10時48分）を横切り、鉄道の左側となる。この踏切で会津若松行きの電車をデジカメに収める。ここから磐梯町駅が遠かった。11時1分県道に出る。雨を瞬間的に感じるがここときのみであった。11時12分と数分経過後にゲゲゲの鬼太郎の選挙カーが往復して行く。何人もの方に聞きながら進む。11時8分、

晴れマークとなる。11時15分、国道に出る。11時20分、猪苗代12kmの道路標識前を通過。11時25分～11時35分、道の駅に立ち寄り、越後だんごを3串頂き昼食代わりとする。11時40分、JR下を潜り無駄な時間を15分位費やす。11時53分、赤い観音橋（12歩）を渡る。駅前に駐車場広場のある磐梯町駅には12時20分到着。運よく会津若松行きの電車がやって来る。

12時59分、磐梯町更科で猪苗代9kmの道路標識前を通過。磐梯山を見ながらの歩きとなる。13時4分、道路標識滝ノ原を通過。地図を見て、これから2回線路下を横切ることを確認する。第1回目は13時11分、“第二猪苗代こ道橋”である。13時12分、佐奈志奈神社あり。13時45分、土田の地名を通過。13時53分猪苗代まで6km地点に到達。13時56分標高1,819mある磐梯山スポットに到達。第2回目は14時12分“第一猪苗代こ道橋”である。14時17分、翁島駅に到着。駅前には“野口英世博士ゆかりの地”と記した記念碑があった。この駅前で年配の女性に「日本縦断とは凄い。いい人に出会った」と励ましの言葉を頂く。暫く鉄道の右側を歩く。14時53分、翁島学校踏切を横切り鉄道の左側となる。正面に雲が殆どない状態の磐梯山を捉える。15時15分蛙のような雲をゲットする。雲は神秘的に刻々色々な形に変化して行く。2年前の駒ヶ岳にかかる雲は愛犬セブンがお手をしているような瞬間を捉えた。15時40分、猪苗代駅に到着する。15時53分、猪苗代町立千里小学校前を通過。ここから、白黒コピーの地図では、川桁駅への道筋は相当難しいと考えたが、15時57分、今歩いて道路の直進する方向に川桁の地名を見つけ安堵する。道路標識に従い山間に向かって進む。16時6分、雲のない磐梯山をデジカメに収める。稲、コスモスのコントラストが印象的であった。16時17分、村社八幡神社前を通過。それにしても日本には神社仏閣が多いと感じる。16時29分、西館橋を渡る。16時35分、曲淵という地名前を通過。16時41分、白い犬と対面。16時46分、熊野神社があった。それにしても、熊野神社、八幡神社、諏訪神社など多いと感じた。みどり生命時代、戸谷氏がたびたび朝礼でスピーチしていたことを思い出した。川桁駅には16時52分到着。当初はここから2.4km先の関都まで考えていたが、辺りは山間であったので、この駅でアップする。結果的には大成功であった。一つは、数分の待ち合わせで郡山行き（16時54分）に間に合ったからである。次のダイヤは18時49分であった。もう一つは、川桁駅には快速が停車するが、関都駅には停車しないからだ。タイムリーな電車に乗れた関係で、郡山駅には17時54分、ホテルには17時45分に到着できる。運よく、20時から始まる大河ドラマに十分な時間があるため、ホテル前の夢一膳でゆっくりと食事がとれる。本日も昨日に続き、晩酌セットをつまみにして地酒（天明など）を味わう。本日の営業キロは31.2km、万歩計で44,214歩であった。磐梯町界限の歩きは、醍醐味があり、思い出に残る歩きの一つとなった。



川桁駅界隈からの磐梯山（コスモスと黄金色の稲が印象的）、川桁駅



第4節 三日目：9月17日（月）：川桁～郡山 晴れ



郡山駅



※会津若松行き（郡山）、川桁駅

三日目（平成30年9月17日）は、昨日の続きの川桁から郡山までの33.4kmに挑戦する。昨日とは異なりホテルで朝食を摂り、そして川桁方面に一番早い電車（昨日の当初のダイヤ：8時29分発）で移動する。昨日の私の持参した地図では道筋が不鮮明なので、ホテルの係りの方に川桁から郡山までの路筋が載った地図をコピーして頂く。これが功を奏して、もしかすると磐梯熱海駅辺りで時間切れになるのではとないかの不安を払拭してくれた。感謝また感謝である。



※微かに見える猪苗代湖、関都駅



※志田浜からの猪苗代湖、猪苗代湖畔駅



※猪苗代湖

本日も昨日の磐梯山と同様、絶景の猪苗代湖を眺めながらの旅となる。関都駅への向かう際、高台からの道路から猪苗代湖が微かに見える。志田浜に面した猪苗代湖畔駅(今は電車未停車)から上戸浜の界隈にある上戸駅まで猪苗代湖を種々のアングルでデジカ

メに収めながらの歩きとなる。何とか郡山までに到着したい一心から、中山宿駅に向かう際随所でジョギングを取り入れる。中山宿駅は幹線道路から曲がる場所が分からず、引き返す事態が発生（ロスタイム 30 分位）する。しかし、18 年間で培ってきた第六感と地元の人のお世話により 13 時 1 分到着できる。ジョギングの効果もあり、営業キロ 6.5 km に 2 時間で上がる。



※上戸浜、上戸駅



※中山トンネル、cafe 凜、中山の大ケヤキ



※やっと到達できた中山宿駅

もう一つ印象に残ったのは、温泉宿の多い磐梯熱海駅で 9,900 km をマークする節目となった。道筋を確認するために話しかけた方と 20 分位世間話をしながら歩く。お祭り

会場で9,900 km踏破の記念写真を2ショットで撮らせて頂く。「人生とはうまくできて
いるなあ」と錯覚もする。



※9900 km踏破の節目駅” 磐梯熱海駅”、その界隈のイベント会場



※安子ヶ島駅、喜久田駅

ここからは安子ヶ島駅、喜久田駅とスムーズに踏破できる。しかし、喜久田駅から郡山宮田駅までは遠かった。朝の窓からの道路に沿ってあると鮮明に覚えていたものの、不安になり何人もの人に問い合わせる。郡山宮田駅から終着の郡山駅までは暗闇の中での歩きとなり、何とか18時42分郡山駅に辿り着く。今回の旅は急遽思いついた鉄道路線であったが、磐梯山や猪苗代湖、磐梯町をはじめとするパズルを解くような歩き、9900 kmで思い出に残る出会い、夢一膳での地酒の堪能などなど一杯思い出に残る3日間であった。福島県の駅弁を頂きながらささやかな祝杯をあげる。天や神のご加護に加え、地元の人々の多大なお世話になり、今回も有言実行でき達成感に浸る。この場をお借りして厚く熱く御礼申し上げます。

磐越西線の二日目の駅舎などの立ち寄り状況は次の通りである。

川桁(9時5分)～関都(9時52分)～猪苗代湖畔(10時24分)～上戸(11時3分)

～中山宿（13時1分）～磐梯熱海（14時32分）～安子ヶ島（15時41分）

～喜久田（16時40分）～郡山富田（17時50分）～郡山（18時42分）

昨夜、レールウェイマップルの白黒コピーでは道筋が不鮮明と判断し、川桁から郡山までの道路地図の詳細をホテルの係りの方にコピーして頂く。これが功を奏し、比較的円滑に歩くことができる。本日は昨日とは異なり、ホテルでの朝の朝食を頂いて臨む。ホテルを8時過ぎにチェックアウトし、駅内のコインロッカーに荷物を預ける。

その関係で会津若松行きの電車で3番目（8時29分）の電車で移動する。川桁駅には9時5分到着。快速のため、安子ヶ島、中山宿、上戸、猪苗代湖畔、関都には停車せず。電車の窓から、道筋を確認しながら川桁駅に向かう。本日の一番の難所は中山宿駅の踏破と察知する。山間からどう歩くかが焦点となろう。昨日、乗車の際教えてもらった道筋（県道322号）を歩き、関都駅を目指す。9時35分、高台から猪苗代湖が見えて来る。9時44分、上着を脱ぐ。9時52分、関都駅に到着する。ここから猪苗代湖畔の歩きとなる。10時7分、壺下を通過。10時11分、志田浜踏切を横切り、鉄道の右側となる。500m位先に猪苗代湖畔駅のホームが見えて来る。涼しそうな木陰を通り、10時15分、国道49号線に合流する。10時17分、道路を横切り、猪苗代湖畔に出る。大きな湖であった。10時24分、猪苗代湖畔駅に到着。駅前には志田浜温泉やキャンプ場などが目に写る。暫く、風光明媚な猪苗代湖を眺めながらの歩きとなる。10時42分、上戸トンネルに沿った遊歩道を歩く。10時44分、猪苗代湖畔をバックに写真撮影。上戸浜国立公園と記した看板前を通過。上戸駅近いと察知する。10時48分、いわきまで98km地点に到達する。10時58分、JR線を跨がり、鉄道の左側となる。11時3分、上戸駅に到着する。国道49号線に戻る。11時11分、大山祇神社前を通過。小走りが始まる。11時40分、田子沼を通過。11時51分、牛を乗せたトラックが通過して行く。11時54分、中山トンネル(全長500m)前に到達。トンネルを出ると郡山市とまるが、この境界のみであった。12時2分、いわきまで93km地点通過。12時10分、左手にJR線を確認する。12時11分、下り電車と対面する。12時15分、中山峠を通過。その先に、4番目の孫と同じ名前のカフェ“凜”があった。そろそろ中山宿駅だろうと察知する。12時28分、五百川橋を通過。12時29分、下りの道路を歩く。12時35分、熱海町中山を通過。その先にいわきまで90km地点を通過。12時38分、中山の大ケヤキ前を通過。民家が増えてこの境界に中山宿駅があると思われたが、その道筋を発見できず。何人もの人のお世話になり、やっと13時1分到着できる。駅は国道49号から500m位離れた地点の高台にあった。1km近く行き過ぎていた。30分位ロスタイムする。13時10分、熊野神社がある。

13時10分、中山宿駅への上り口まで戻る。そして行き過ぎたと察知した地点には13時15分戻る。ロスタイムを戻すため、小走りが続く。13時29分、いわきまで88km地

点に到着。13時45分、郡山15km、いわき87km地点を通過。13時48分、JR下（二渡トンネル）を潜り、鉄道の左側となる。この線路に沿ってあるべきところ、1,340mある熱海トンネル越えをする。このトンネルを出た先で右往左往する。直進の方向が磐梯熱海駅を立ち寄らずの歩きとなる恐れがあるからだ。交差点に引き返し、道の駅と思われるところに戻り、熱海磐梯駅への道筋を聞いたのが大正解であった。運よく磐梯熱海駅（14時32分）に立ち寄ることができる。この駅は偶然に9,900km地点となる。駅前に居られた村沢さんという方の25分位歩く機会を得る。途中、秋祭りの会場に立ち寄り、村沢さんと記念写真を撮る機会（14時44分）を得る。先程トンネルから出てきた国道49号線界限（14時57分）まで案内頂く。15時4分、道路下にJR線を見つける。鉄道の右側となる。15時25分、上伊豆口バス停（福島交通）を通過。そろそろ安子ヶ島駅界限にある陸橋がある。この陸橋界限の上伊豆街道踏切を渡るか否か右往左往する。結果的にはこの踏切を渡り、再度踏切を渡り国道に戻るルートが余儀なくされる。安子ヶ島駅には15時41分に到着する。15時47分、新安子ヶ島バス停前を通過。本日の温度は25℃と表示（15時51分）とある。16時2分、いたちが道路脇にいる。16時7分、一の谷バス停前を通過。16時9分、国道が鉄道から離れて行く感じであったので、16時9分一般道の道筋に切り替える。16時18分、いわきまで79km地点に到達。ここから喜久田駅は近いと思ったが、歩いても歩いても到達できず。16時40分、喜久田駅に到着。工場地帯の道筋を歩く。17時6分、道路下を潜り、17時10分、富田中道踏切を横切る。17時41分、幹線道路下を潜る。17時43分、郡山富田駅が見えるが、ここから駅舎まで遠かった。陸橋経由が余儀なくなれたかかである。17時48分、郡山富田駅に到着。辺りは相当暗くなりかけていた。18時郡山駅界限の明かりを確認する。18時5分、第一越後街道踏切を横切る。暗闇の道筋を地元の人に聞きながら進む。18時42分、やっと郡山駅に到着できる。福島おとなの秋ごはんを肴にして、19時半の新幹線で祝杯をあげる。本日の営業キロは、33.4km、万歩計は60,107歩だった。自宅到着は22時半であった。今回のシリーズも有言実行でき充実した旅となった。感謝あるのみ。



※郡山富田駅、郡山駅



※郡山駅、祝杯をあげる